

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	最先端研究開発戦略的強化費補助金		担当部局庁	研究振興局	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成22年度～		担当課室	振興企画課学術企画室	学術企画室長 伊藤史恵		
会計区分	一般会計		施策名	IX-1 学術研究の振興			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	新成長戦略(平成22年6月18日閣議決定) 最先端研究開発戦略的強化事業運用基本方針 (平成22年4月27日総合科学技術会議決定) 第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	世界をリードし、世界のトップを目指す研究開発を通じて、我が国の中長期的な国際競争力の強化等を目指す「最先端研究開発支援プログラム」を加速・強化する。また、グリーン・イノベーション及びライフ・イノベーションを中心に、基礎研究から出口を見据えた研究開発を行う最先端の研究設備の整備・運用に必要な支援を行うとともに、海外への若手研究者派遣の支援を行い、「頭脳循環」の実現による研究開発力の強化を図る。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	「最先端研究開発戦略的強化事業運用基本方針」(平成22年4月27日総合科学技術会議決定)に基づき、①最先端研究開発支援プログラムで決定された30課題の研究開発を一層加速・強化するために支援を行う「最先端研究開発支援プログラム加速・強化事業」、②最先端研究開発支援プログラム全体及び中心研究者・研究課題の研究内容を広く公開する活動に対して支援を行う「最先端研究開発支援プログラム公開活動」、③研究ポテンシャルが高い研究拠点において、最先端の研究成果の創出が期待できる設備を整備するとともに、運用に必要な支援を行う「最先端研究基盤事業」、④優れた国際共同研究に携わる若手研究者の海外派遣を支援する「頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」を実施する。なお、本補助金は機関に対する定額補助になっている。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
		当初予算	—	40,000	17,500	10,050	200
		補正予算	—	—	—	—	—
		繰越し等	—	△ 22,933	14,408	8,525	—
	計	—	17,067	31,908	18,575	200	
	執行額	—	17,063	31,873	—	—	
執行率(%)	—	100.0%	99.9%	—	—		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (24年度以降)
	最先端研究設備の利用状況等 (本事業においては、設備等整備後に、事業実施期間全体で成果を判断すべきであるため、現時点で達成度を定量的に示すのは困難。参考として、平成23年度までに一部利用を開始した2事業における最先端研究設備の利用課題数を示す。)	成果実績	課題	—	—	214	国内外の利用者の増(設備整備後)
		達成度	%	—	—	—	—
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	最先端研究設備の整備状況等 (全事業が終了予定の平成24年度末に向け、国内外の若手研究者に広く利用される研究基盤の整備を進めている。参考として、本事業(4プログラム)により実施される課題数を示す。)	活動実績 (当初見込み)	課題	—	125	57	—
				()	(28)	(26)	
単位当たりコスト	559 (百万円/課題)		算出根拠	単位当たりコスト =実施課題に対する平成23年度配分額(31,864百万円)/実施課題数(57課題)			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	最先端研究開発戦略的強化費補助金	10,050百万円	200百万円	最先端研究開発支援プログラム公開活動に特化し、事業規模を縮減 9,850百万円			
	計	10,050百万円	200百万円				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	最先端研究基盤事業において、事業選定時に広く意見募集を行うなど、社会ニーズの把握に努めている。また、国内外の若手研究者等を惹きつけ、国際的な頭脳循環を促進するための最先端研究設備の整備は重要であり、国が積極的に推進していく必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	平成23年度に新規募集を行った最先端研究開発支援プログラム公開活動については、公募を行うことで競争性を確保しており、また、事業選定に当たっては、必要経費の積算の適切性を審査の観点の一つとしている。経費の執行に関しては、事業年度毎に実績報告書等において、支出先・使途の把握、補助金の使用状況や事業目的との整合性についての確認に努めている。また、現地調査を行うなど必要な指導を行っている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	最先端研究基盤事業において、平成22年度に14課題が採択され、24年度末の事業完了を目指し、最先端研究設備の整備が進められている。東日本大震災の影響等により、多くの事業において計画の遅れが懸念されたが、繰越制度の活用等により、事業目的の達成に向けて順調に整備が進んでいる。本事業においては、設備等の整備後に事業実施期間全体で成果を判断すべきであるため、現時点で成果を定量的に示すのは困難であるが、事業期間終了後に、各課題の研究テーマの特徴を踏まえつつ、課題選定時の観点に基づき評価を実施する予定としている。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・平成24年度予算においては、最先端研究基盤事業における新規採択の見送り、事業の進捗に伴う事業規模の縮減を行うことで、予算を縮減している。</p> <p>・最先端研究基盤事業は、最先端の研究設備の整備が主であり、平成24年度の事業期間終了後の運用にあたっては、別途維持管理のための費用が必要。各機関の自己努力を促しつつも、広く産学官の研究者等の利用に供するためには、新たな支援方法が不可欠である。また、国内外の若手研究者等を惹きつけ、国際的な頭脳循環を促進するため、最先端研究設備の整備は今後とも重要。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点:本事業は、将来における我が国の経済社会の基盤となる先端的な研究開発を推進するとともに、潜在的可能性を持った研究者に対する支援体制を強化するものであり、事業成果等の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見:本事業は、平成22年度レビュー等の指摘を踏まえ、24年度において事業の進捗に伴う事業規模の縮減等により予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価できる。なお、引き続き、事業の効率的な実施を目指し、事業成果の検証を行うべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
執行等改善	<p>概算要求に当たっては、最先端研究基盤事業の支援期間終了に伴い、最先端研究開発支援プログラムを加速・強化し、効果的・効率的な実施を促進する事業に特化することとした。</p> <p>なお、事業成果の検証については、最先端研究基盤事業においては、設備等の整備後に事業実施期間全体で成果を判断すべきであるため、事業期間終了後に、各課題の研究テーマの特徴を踏まえつつ、課題選定時の観点に基づき評価を実施する予定であり、評価結果の反映等により国際的な頭脳循環の一層の活性化を図る。</p>		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>【関連URL】</p> <p>○内閣府ホームページ「最先端研究開発戦略的強化事業について」 http://www8.cao.go.jp/cstp/sentan/kyouka_about.html</p> <p>○独立行政法人日本学術振興会ホームページ「最先端研究基盤事業」 http://www.jsps.go.jp/j-sentankiban/youshiki.html</p> <p>○文部科学省ホームページ「最先端研究基盤事業補助対象事業の決定について」 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/06/1295019.htm</p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	—	平成23年行政事業レビュー	0224

文部科学省
31,873百万円

〔補助〕

A: 最先端研究開発戦略的
強化費補助金
31,873百万円
(独)日本学術振興会

〔総合科学技術会議(CSTP)の定めた運用基本方針のもと、最先端研究開発支援プログラムの加速・強化及び若手・女性研究者が活躍する研究基盤等の強化に対して支援〕

〔補助金の交付・公募・審査に係る業務を実施〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単位:
百万円)

〔選定(CSTP)・間接補助〕

〔公募(CSTP)・間接補助〕

〔選定(文部科学省)・間接補助〕

〔公募・間接補助〕

B: 最先端研究開発支援プログラム加速・強化事業
1,967百万円
大学・独立行政法人等
(全11機関)

C: 最先端研究開発支援プログラム公開活動
241百万円
大学・独立行政法人等
(全11機関)

D: 最先端研究基盤事業
29,643百万円
大学・独立行政法人等
(全16機関)

E: 頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム
13百万円
大学・独立行政法人等
(全9機関)

〔最先端研究開発支援プログラムに採択されたiPS細胞再生医療応用プロジェクトなどの研究開発を一層加速・強化〕

〔最先端研究開発支援プログラム全体及び中心研究者・研究課題の研究内容を広く公開する活動を実施〕

〔大型低温重力波望遠鏡などの最先端の研究成果の創出が期待できる設備を整備〕

〔優れた国際共同研究に携わる若手研究者の海外派遣を支援〕

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A. 独立行政法人日本学術振興会			E. 東北大学		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
補助金	大学、独立行政法人等へ交付	31,864	事業推進費	消耗品費	2
旅費	実地調査旅費等	5	その他	国内旅費・外国旅費、若手研究者派遣旅費、事業管理経費等	2
その他	派遣職員雇用経費、通信運搬費等	3			
消耗品費	交付業務等に必要な消耗品の購入	1			
計		31,873	計		4
B. 北海道大学			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品費等	物品の購入、国内旅費等	755			
計		755	計		0
C. 独立行政法人科学技術振興機構			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事業実施費	会議費、通信運搬費等	86			
印刷製本費	パンフレット印刷費等	5			
その他	会場借料、国内旅費等	3			
計		94	計		0
D. 東京大学			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
設備整備費	研究設備の購入等	9,056			
物品費	物品の購入等	445			
その他	雑役務費等	162			
謝金等	研究への協力謝金等	88			
旅費	国内旅費・外国旅費	19			
計		9,771	計		0

※四捨五入の都合上、各費目の合計と計欄の数値が一致しない場合がある。

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)日本学術振興会	大学、独立行政法人等への補助金交付	31,873	—	—

※補助事業

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	北海道大学	持続的発展を見据えた「分子追跡放射線治療装置」の開発	755	—	—
2	東北大学	省エネルギー・スピントロニクス論理集積回路の研究開発 など2課題	318	—	—
3	(独)産業技術総合研究所	低炭素社会創成へ向けた炭化珪素(SiC)革新パワーエレクトロニクスの研究開発 など2課題	263	—	—
4	技術研究組合光電子融合基盤技術研究所	フォトニクス・エレクトロニクス融合システム基盤技術開発	215	—	—
5	東京大学	未解決のがんと心臓病を撲滅する最適医療開発 など2課題	141	—	—
6	京都大学	iPS細胞再生医療応用プロジェクト	85	—	—
7	東京工業大学	新超電導および関連機能物質の探索と産業用超電導線材の応用	62	—	—
8	(独)科学技術振興機構	次世代質量分析システム開発と創薬・診断への貢献 など2課題	51	—	—
9	大阪大学	1分子解析技術を基盤とした革新ナノバイオデバイスの開発研究—超高速単分子DNAシーケンシング、超低濃度ウイルス検知、極限生体分子モニタリングの実現—	50	—	—
10	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構	Mega-ton Water System	17	—	—

※補助事業

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)科学技術振興機構	科学者が、自身の進める最先端科学・技術の可能性とそれらがもたらす明るい未来について、日本の未来を担う若者に語りかけることを基本コンセプトとした一般シンポジウム など2課題	94	—	—
2	東京大学	「ダークエネルギー」シンポジウム及び第2回国際共同研究参加機関代表者会議 など3課題	31	—	—
3	(独)理化学研究所	幹細胞からみた神経発生 など2課題	25	—	—
4	株式会社コンベンションリンテージ	第2回分子追跡放射線治療国際会議	18	—	—
5	(独)産業技術総合研究所	革新的ナノテクノロジー及びシステムに関する国際シンポジウム	17	—	—
6	筑波大学	行動神経科学の最前線	16	—	—
7	学校法人慶応義塾	第1回先端フォトニックポリマー国際会議	13	—	—
8	東北大学	第2回集積化マイクロシステム国際シンポジウム など2課題	11	—	—
9	名古屋大学	革新的ナノバイオデバイスに関する最先端研究開発国際シンポジウム	8	—	—
10	京都大学	iPS細胞の標準化と再生医療	4	—	—

※補助事業

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東京大学	大型低温重力波望遠鏡の整備 など6課題	9,771	—	—
2	高エネルギー加速器研究機構	素粒子分野における世界最先端研究基盤の整備-KEKBの高度化による国際研究拠点の構築-	7,027	—	—
3	(独)日本原子力研究開発機構	大強度陽子加速器施設(J-PARC)を中心とした中性子科学の研究環境整備 など2課題	3,372	—	—
4	(独)理化学研究所	コヒーレント光科学研究基盤の整備 など3課題	2,006	—	—
5	(独)海洋研究開発機構	海底下実環境ラボの整備による地球科学—生命科学融合拠点の強化(「ちきゅう」を活用)	1,823	—	—
6	大阪大学	生命動態システム科学研究の推進 など3課題	1,713	—	—
7	京都大学	心の先端研究のための連携拠点(WISH)構築 など3課題	1,221	—	—
8	北海道大学	新興・再興感染症の克服に向けた研究環境整備 など2課題	656	—	—
9	長崎大学	新興・再興感染症の克服に向けた研究環境整備 など2課題	489	—	—
10	東北大学	化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研究・教育基盤の整備 など2課題	379	—	—

※補助事業

E.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東北大学	次世代流体科学の展開に向けた戦略的国際共同研究プロジェクト など2 課題	4	—	—
2	東京大学	実世界をモニタリング・アーカイブするクラウドベースアプリケーションの開発 事業 など2課題	3	—	—
3	早稲田大学	開発途上国における歴史資産の保全と活用による地域再生を担う研究者育 成プログラム	2	—	—
4	学習院大学	「リモートセンシングデータを利用した黄河流域の歴史と環境」国際研究プロ グラム	1	—	—
5	大阪市立大学	アジア・アーツマネジメント研究機構確立のための若手研究者派遣・育成プ ログラム	1	—	—
6	名古屋大学	NANTEN2による超広域分子雲観測と4基の天文観測衛星との連携研究	1	—	—
7	高エネルギー加速器研究機 構	実験的宇宙論に関する国際的リーダーの育成 など2課題	1	—	—
8	(独)物質・材料研究機構	量子ビームによる機能性材料の国際共同研究	0.2	—	—
9	神戸大学	時空構造解明を目指すアトラス実験での若手研究者育成とネットワーク構 築	0.2	—	—

※補助事業